

平成 30 年 8 月 13 日

泉南市議会議長  
河部 優 様

行財政問題対策特別委員会  
委員長 岡田 好子

## 行財政問題対策特別委員会 行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

1. 【視 察 日】平成 30 年 8 月 1 日（水）・平成 30 年 8 月 2 日（木）

2. 【視察委員】委員長 岡田 好子 副委員長 堀口 和弘  
委員 山本 優真 委員 金子健太郎  
委員 森 裕文 委員 大森 和夫  
委員 田畑 仁 議長 河部 優

3. 【視察先】

①愛知県高浜市 ②岐阜県岐阜市

4. 【調査事項】

①庁舎整備事業について

②みんなの森 ぎふメディアコスモスについて（現地視察）

5. 【視察目的】

リース方式を活用した庁舎整備事業、みんなの森 ぎふメディアコスモスという複合施設において、本市より先進的な各事業について調査・研究することにより、本市議会の政策提案力を高めることを目的とする。

6. 【概要】

①愛知県高浜市

●庁舎整備事業について

1. 庁舎整備事業の背景・経緯

(1) 旧庁舎

①劣化状況

・建設時期（S52 年 2 月 28 日竣工）

・耐震化が未実施なため、災害時の防災拠点としての機能の確保、業務の継続ができない可能性がある。

②使用状況

- ・延床面積の半分以上の面積が、倉庫、機械室、駐車場等の共用部分で占められ、資産有効活用の視点からは非効率となっている。
- ・庁舎を保有し続けた場合、今後の行政サービスのあり方の変化には、対応が難しいと想定される。

## (2) 検討経過

○H23 年度 「高浜市公共施設マネジメント白書」作成

- ・公共施設の現状や、課題等を取りまとめる。

○H24 年度 「公共施設あり方検討委員会」設置

- ・「公共施設マネジメント基本方針」、「公共施設改善計画（案）」を取りまとめる。
- ⇒高浜小学校及び市役所庁舎の老朽化について早急な対策が必要と判明。

○H26 年 1 月 基本方針（新しい地域活動拠点の形成を目指して）策定公表

- ・今後の地域社会の変化等を踏まえ、小学校区を単位とした地域の活動拠点として位置づけ、多目的利用を図るとともに、事業方式については市民との協働や民間事業者の有する能力、ノウハウの活用を前提とする新たな手法を取り入れていくこととする基本方針を公表。

## 2. 庁舎整備事業の概要

### (1) 基本的な考え方

- ①事業者による新たな市庁舎のあり方の提案を受ける。
- ②事業者から賃借等で 20 年間庁舎として使用し、財政負担の平準化を図る。
- ③市民の多目的利用を図る。
- ④他の公共施設の集約化、まちづくりに貢献する収益機能により余剰容積を活用する。
- ⑤本庁舎といきいき広場の執務機能を再編し、新たなサービス提供システムを構築する。（いきいき広場：本庁舎から 300m 離れたところにあり、福祉部門が入っている。）

### (2) 民間から賃借する理由

- ①整備費用を節減し、支払コストを平準化するため。
- ②整備費用を節減し、他の公共施設の整備費用に振り向けるため。
- ③20 年後の行政需要の変化に柔軟な対応が可能となるため。

### (3) 20 年間とする理由

- ①旧庁舎の耐用年数を 60 年とした場合、ほぼ残期間が 20 年であるため。
- ②IT 化により、事務のあり方、行政サービスの提供方法も変化することが想定されるため。
- ③建物内の設備の更新時期が、ほぼ 20 年後に到来するため。

### (4) 提案を求めた内容と結果

- ・事業用地について

- ①市民にとっての利便性が良好であること。
  - ②自然災害の危険が比較的少ないこと。
- ⇒結果：現市庁舎敷地内の旧庁舎の隣に建築することとなる。

・施設機能について

- ①市庁舎機能
- ②市民も使用可能な多目的活用ゾーン
- ③他の公共施設の複合化・合築
- ④収益機能の複合化・合築
- ⑤いきいき広場（分庁舎機能）との連携

⇒結果：本庁舎レイアウト

- 1階 住民登録、各種証明書発行手続き、生活相談の窓口である市民総合窓口センターを配置
- 2階 災害対策本部機能を確保。市長室、副市長室、災害対策本部、都市政策部、企画部、総務部を配置
- 3階 行政と市民が多目的に利用することもできる議場や、議会関係諸室を配置（※委員会も議場で行い、議員応接室はなく、議員控室は1室のみ）

いきいき広場（分庁舎機能）との連携

- ・福祉部門に加え、新たに子ども未来部、教育委員会が配置され、お年寄りから子どもまで幅広い世代に対応する福祉・教育の拠点となる。
- ・新庁舎（行政の中核機能と防災拠点）と役割が明確化され、わかりやすい庁舎となる。

・事業費について（現庁舎を耐震改修し20年間利用した場合を想定。）  
 ※この年平均額を下回る金額の提案を求める。

耐震改修費等	19億2,800万円
解体処分費	1億3,900万円
維持管理・運営費	12億5,700万円
合計	33億2,400万円
年平均	1億6,620万円

⇒結果

事業費	31億3,129万円
主な内訳	
施設整備費（設計費含む）	19億6,220万円
維持管理費	6億6,600万円
運営費	2億3,114万円
解体費	4,000万円

・施設等の条件について（以下の3点の中から提案を求める。）

- ①市内の既存民間施設の活用。
- ②事業者にて用地を確保し施設を新築。
- ③現市庁舎敷地を使用して施設を新築。

⇒結果：現市庁舎敷地を使用して施設を新築することとなる。

・面積について

建物延床面積⇒約 5,000 m<sup>2</sup>（旧庁舎約 7,800 m<sup>2</sup>）

執務面積⇒約 3,500 m<sup>2</sup>（旧庁舎約 3,800 m<sup>2</sup>）

⇒結果：建物延床面積 4,976.49 m<sup>2</sup>（地下3階一部地下1階）

#### (5) 事業スキーム

- ・市所有の土地を無償で事業者へ貸付。（一部収益施設については有償）
- ・民間事業者は資金調達を行い、設計から施工、維持管理、運営を行う。
- ・市は設計への意見、業務の監視を事業期間に行う。
- ・事業費は賃料として民間事業者に定額で支払う。

#### (6) 庁舎移転に伴う 2S（整理・整頓）活動

事務を行う執務室のスペースは確保する必要があるため、文書等の保管場所を大幅に縮小。庁舎移転までに文書を徹底的に廃棄する 2S 活動を実施。

書庫・倉庫 471 m<sup>2</sup> ⇒ 92 m<sup>2</sup>

目標文書量 4,021Fm ⇒ 800Fm

（Fm：書類をすべて積み上げたと仮定した際の高さであり、1Fm で書類 1 万枚に相当すると言われている。）

最終的文書量 4,021Fm ⇒ 2,044Fm

⇒目標には到達しなかったが、レイアウトの再検討、壁面収納庫の購入などで新庁舎にすべての文書を収めることができた。新庁舎建設後も引き続き文書量の削減に努めている。

#### (7) 事業期間終了後について

原則更地にして返還としているが、いきいき広場（分庁舎機能）の利用や 20 年後の行政サービスの変化を想定する中で、業務完了の 5 年前に業者と協議する予定であり、リースを継続して庁舎として使用、他の機能へ転換などが考えられるとのこと。

### 3. 事業の成果

提案で求めた事業費について大幅に節減することはできなかったが、リース方式を採用することにより財政負担の平準化を図ることができ、他の公共施設の更新費等に振り分けることができている。なお、学校を地域コミュニティの核として新たなまちづくりを進めていくこととして、現在は、高浜小学校整備事業（複合化）、勤労少年ホーム跡地活用事業をモデル事業として推進中とのことである。



## ②岐阜県岐阜市

### ●みんなの森 ぎふメディアコスモスについて（現地視察）

#### 1. 施設概要

「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる複合施設である。

- ・「市立中央図書館」・・・「滞在型図書館」をキーワードとしており、最大所蔵可能数 90 万冊、座席数 910 席と開放的な図書館。
- ・「市民活動交流センター」・・・活動・発表の場となるスタジオを備え、市民活動を積極的に支援する。
- ・「多文化交流プラザ」・・・国際交流の場。
- ・「みんなのホール」、「みんなのギャラリー」・・・展示や発表会、講演会やセミナーなど多様な使い方ができる。

#### 2. 建設に至る経緯

H16 年度 岐阜大学医学部・附属病院移転に伴い跡地利用に係る市民意見募集  
⇒図書館、市庁舎、市民会館、文化ホールという意見が多かった。

H17 年度 基本構想策定（岐阜大学医学部等跡地利用計画に係る基本的な考え方）

H22 年度 基本計画策定（岐阜大学医学部等跡地整備基本計画）

- ・第 1 期 複合施設（中央図書館・交流センター・ギャラリー等）
- ・第 2 期 行政施設（市庁舎）
- ・第 3 期 （仮称）市民文化ホール

資質評価型プロポーザル方式で設計者を選定 ⇒ 建築家 伊東豊雄氏

※基本計画に掲げている「新たな集客の拠点」、「にぎわいの創出」、「市民協働拠点」を実現するために全国を視野に入れて、設計者の考え方や実績を重視して

### 選ぶ方式

H23年度	基本・実施設計
H25年度	施工業者選定⇒工事着手（H25年7月）
H26年度	建物完成（H27年2月24日）
H27年度	開館（H27年7月18日）
H28年度	来館者100万人達成（H28年5月） 200万人達成（H29年2月）
H29年度	立体駐車場完成：収容台数約300台（H29年9月） 来館者300万人達成（H29年11月）

### 3. 事業費

事業費内訳		財源内訳	
土地取得費	約29.5億円	国庫補助金（社会資本整備総合交付金）	約39億円
設計費	約3.5億円	岐阜大学医学部跡地整備基金	約12億円
建設費	約77億円	図書館整備基金	約14億円
図書購入費等	約15億円	合併特例債	約56億円
合計	約125億円	一般財源	約4億円
		合計	約125億円

### 4. 建築の特徴

#### ①にぎわいのある「まち」

- ・全体に壁が少なく、一体感を生み出すような視覚的関係を内外につくりだし、常にどこかがにぎわっている「まち」のような建築。
- ・「まち」は点在する小さな家を大きな家で包み込むことでつくられ、小さな家はそれぞれ個性を持った親密な空間で、大きな家は全体をおおらかに包み込むシェルターとなっている。

#### ②グローブ（小さな家）

- ・昼は上部トップライトからの自然光を柔らかく室内に拡散させ、夜にはグローブ内の照明のシェードにもなる。
- ・上部の開閉式の水平窓を開けることで、自然な風の流れを生み出し、2階の大空間を換気することができる。

#### ③木製格子屋根（大きな家）

- ・構造面、意匠面、環境面でも十分な性能を持つ木構造の屋根となっており、岐阜県産材の東濃ひのきを使用。（良い香り⇒リラックス効果がある）

#### ④環境への配慮

- ・豊富な長良川の伏流水 ⇒ くみあげた地下水温度を利用した熱源計画
- ・全国的に日照時間に恵まれた特性 ⇒ 太陽光・太陽熱を十分に利用
- ・床面からの輻射による冷暖房方式 ⇒ 体感的に快適で気持ちの良い空調

⇒消費エネルギー1/2 を実現（1990 年の同規模建物と比較）

## 5. 施設利用状況

①来館者数 年間約 15 万人（旧図書館）⇒ 年間約 130 万人（H29 年度実績）

（※平日平均 約 3,000 人、休日平均 約 5,000 人）

- ・図書館新規登録者数 929 人（H25 年度）⇒ 30,372 人（開館後 1 年）
- ・貸出利用者の年齢層の変化  
40 歳以下の割合 約 30%（H25 年度） ⇒ 54%（H29 年度）
- ・ベビーカーでの来館が 3 年で急増

②施設稼働率

ホール 80%、展示ギャラリー92%、スタジオ（4 室全体）99%（H29 年度実績）

## 6. 取組みとこれから

次世代型図書館の 6 つの柱

①企画イベントの実施

- ・効果的な集客イベントによる話題の喚起
- ・日常的連続イベントによるメッセージ発信  
⇒開館 3 周年記念イベント・・・H30 年 7 月 14～16 日で実施し、来館者は各日 4～5 千人。

②子どもの育成（サードプレイス）

- ・読書の重要性啓発
- ・学校図書館の活性化  
⇒・子ども司書の育成・・・本を読むことを通して思ったことや生まれた気持ちを、自分の言葉で友達や家族や学校の先生、地域の人などまわりの人に楽しく伝えていってもらうために、子ども司書制度は生まれ、現在までに 60 名の子ども司書が誕生。
- ・学校連携室・・・学校図書館という子どもたちにとって、もっとも身近な読書環境を整え、読書の楽しさや言葉の豊かさを育むことのできる読書活動や図書館活用を進める。

③郷土の魅力

- ・郷土資料の充実
- ・特色あるアーカイブコレクション  
⇒第 4 期「みんなの図書館 おとなの夜学」・・・NPO 法人が企画し、岐阜の地域文化に通じた様々な分野の専門家や、その道の第一人者による対談やディスカッションを行い、岐阜の郷土文化にまつわるあれやこれやを学ぶ講座。

④ビジネス支援

- ・起業ニーズの発掘

- ・ 創業支援に関する資料提供  
⇒ ビジネスチャレンジ支援相談窓口・・・岐阜県よろず支援拠点のコーディネーターが経営上のあらゆるお悩みの相談に対応。司書も同席して、図書館の本などを活用しながらサポート。

⑤ 本がつなぐひと・まち

- ・ 周辺地域への来館者の回遊の促進
- ・ 本を通じた人材発掘  
⇒ 「まちライブラリアン養成講座」・・・まちライブラリーとは、お寺やカフェなど、まちかどに本棚を置いてみんなで共有する小さな図書館である。現在8か所が参加しており、お寺やお店など店先にある本棚を見ることで、店主たちの人柄などが見ることができる。

⑥ 図書館ベース事業

- ・ 図書館連携
- ・ 分館との企画連携など
- ・ 司書のエンパワメント（選書力及びサービス力の向上）  
⇒ 図書館司書の能力向上研修

市民との協創・協働

① ライブラリークラブの育成

- ・ 「本・ひと・まち」をつなぎ、広げる活動を企画・運営する市民の自主グループ。

② 図書館ボランティアの育成

- ・ 本の修理、書棚の整理、小学校・幼稚園への読み聞かせ等。

③ まちライブラリアンの育成





## 7. 【所感】

### ①庁舎整備事業について

一昔前なら庁舎はそのまちの顔になるので、リース方式は受け入れられなかつたらうが、災害時の防災拠点の重要性を考えるならば、庁舎の老朽化は大きな課題であり対策が急務となります。また取捨選択し、未来に負担を残さないように努力することは絶対条件であります。庁舎につきましては、限られたスペースを有効に活用できるよう、移動しやすい工夫がされている中でも、DVDなどを見ることができ子どもたちの居場所を確保されている点が素晴らしいと感じました。

さらに以下の点が、本市の今後の課題になると考えます。

- ・今後の行政サービスを見据えた、市民にとっての利便性が良く、災害の危険性が少ない、一体的に施設を利用することが可能な庁舎を検討すること。
- ・受付・相談窓口の近くに子どもたちの居場所を確保すること。
- ・福祉部門と教育部門の連携（ワンストップサービス）をすること。
- ・議場を会議等の場として、市民にも利用できるようにすること。

### ②みんなの森 ぎふメディアコスモスについて

みんなの森のみんなとは誰か？

市民に寄り添った、身近な「滞在型図書館」で、ここにいると気持ちがいい。ずっといたい。何度でも来たくなる。そういう楽しい図書館を目指しオープンされました。

読書は孤立しているが、共読（とによりみ合う）によって本を挟みながら、人と人の対話（コミュニケーション）をはかっており、私たちが大切にしたいこととして掲げられている「子どもの声は未来の声」に記載のある、子どもたちの育ちを末永く見守る場所でありたいと考えられています。また、企業等も気軽に相談することのできるビジネス支援に力を入れている点も素晴らしいと感じました。

さらに以下の点が、本市の今後の課題になると考えます。

- ・子ども司書制度を導入し、本を大好きな子ども達を増やすこと。
- ・本市で行っているリサイクル市（除籍本等の再活用）を図書館以外でも実施すること。
- ・図書館で1日中過ごすことができるよう、食事のできる場所を確保すること。
- ・外国の方にも親しまれるような、サービスを提供すること。